

# 第2回 安平町町民まちづくり会議 議案

安平町への移住をおねがいする顔



令和5年度卒業の早来学園9年生が授業で作成した町非公式キャラクター「あびたまなっちゃん」

子ども達にも安平町に親しみを持ってほしいと願いから創られた。

日時 令和8年5月12日(火)・13日(水)

場所 安平町役場 総合庁舎(2F 大会議室)

## 議事（２）『まちの強み』について

### 【問い】

- ・第２次総合計画を策定する際に挙げられた安平町の『強み』は、現在も『強み』か？
- ・その『強み』の質は変わったか？ あるいは、無くなったか？
- ・その『強み』は、他地域と比べてどうか？
- ・当時、挙げられなかった（無かった）『強み』はあるか？

### ↓基本構想P29より抜粋

町民参画などを通じて抽出された「まちの強み」			
立地 地勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎新千歳空港・国際拠点港湾苫小牧港など交通拠点に至近</li> <li>◎鉄道網や高速道路インターチェンジが立地</li> </ul>	健康 福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎地域福祉を支える住民ネットワークが確立</li> <li>◎過疎自治体だが地域医療・高齢者福祉事業・しょうがい者福祉事業を展開する民間法人が存在</li> </ul>
生活環境 生活基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎希少生物が生息する自然豊かな生活環境</li> <li>◎恵まれた立地と自然環境が調和した暮らしやすさ</li> <li>◎気象条件に恵まれ大災害が少ない環境</li> <li>◎丘陵が織り成す北海道らしい牧歌的な風景</li> <li>◎石狩・空知に近接しているが降雪量は少ない</li> <li>◎日本最大級のメガソーラー発電所と世界最大級の蓄電施設が町内に存在</li> </ul>	子育て 教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎登下校時の見守りボランティア活動など、地域で子どもを育てる意識の強さ</li> <li>◎待機児童ゼロ（2016年）</li> <li>◎公私連携幼保連携型認定こども園の整備</li> <li>◎「子育てしやすい街ランキング（2015年）」全道2位</li> <li>◎18歳までの子ども医療費の無料化を実現</li> <li>◎少ない児童生徒数にありながら文化・スポーツ活動で全道・全国レベルの活躍が顕著</li> <li>◎積極的な就労支援などで注目される誘致企業会と追分高等学校による連携活動</li> <li>◎全ての認定こども園・小中学校にコミュニティ・スクールを設置</li> <li>◎幼保小中高の連携体制が確立</li> </ul>
経済 産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎雇用を生む、規模の大きな企業が町内に立地</li> <li>◎昼夜間人口比率の高さという他の過疎地域にはない特殊性</li> <li>◎名馬が集まる日本有数の軽種馬産業</li> <li>◎多種多様な農業が展開（少量多品種）</li> <li>◎有機農業と慣行農法の共存に寛容な農業文化</li> <li>◎ブランド品の存在（アサヒメロン、和牛など）</li> <li>◎約75haの作付面積を誇る丘陵に咲く菜の花畑</li> <li>◎多数のCM撮影が行われる景観を保有</li> <li>◎プロゴルフツアー開催の名門コースを含むバリエーションに富んだゴルフ場の存在</li> </ul>	人づくり ・ コミュニティ (生涯学習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎まちづくり基本条例・まちづくりファンド（町民基金）の設置</li> <li>◎地域コミュニティ活動が健在で防災や高齢者対策など自助・共助・公助の役割分担が機能</li> <li>◎屋内アイスアリーナ・鉄道資料館など近隣には無い希少スポーツ施設・文化施設の存在</li> </ul>
		行財政 運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎自治会長等会議の制度化により行政と住民の距離が近く住民意見の政策反映スピードが速い</li> </ul>

※あなたが、そう思う理由はなんですか？

※それは、上の7つのカテゴリー（「立地地勢」から「行財政運営」まで）のどこに当てはまりますか？あるいは、当てはまりませんか？

※次のページにあるように『弱み』という視点でも結構です。

## 議事（２）『まちの強み』について

### ↓基本構想P40-41抜粋

S まちの強み (Strength)	分野	W まちの弱み (Weakness)
◎1 新千歳空港・国際拠点港湾苫小牧港など交通拠点に至近 ◎2 鉄道網や高速道路インターチェンジが立地	立地 地勢	▽1 近接市町に比べ深刻な人口減少と少子高齢化
◎3 希少生物が生息する自然豊かな生活環境 ◎4 恵まれた立地と自然環境が調和した暮らしやすさ ◎5 気象条件に恵まれ大災害が少ない環境 ◎6 丘陵が織り成す北海道らしい牧歌的な風景 ◎7 石狩・空知に近接しているが降雪量は少ない ◎8 日本最大級のメガソーラー発電所と世界最大級の蓄電施設が町内に存在	生活環境 生活基盤	▽2 Wi-Fiの未整備と郊外のインターネット環境の遅れ ▽3 特に追分地区で顕著な空き家・空き地の増加 ▽4 道路の環境管理が特に行き届いていない ▽5 町内施設や看板に統一感がなく寂れた感覚
◎9 雇用を生む、規模の大きな企業が町内に立地 ◎10 昼夜間人口比率の高さという他の過疎地域にはない特殊性 ◎11 名馬が集まる日本有数の軽種馬産業 ◎12 多種多様な農業が展開（少量多品種） ◎13 有機農業と慣行農法の共存に寛容な農業文化 ◎14 ブランド品の存在（アサヒメロン、和牛など） ◎15 約75haの作付面積を誇る丘陵に咲く菜の花畑 ◎16 多数のCM撮影が行われる景観を保有 ◎17 プロゴルフツアー開催の名門コースを含むバリエーションに富んだゴルフ場の存在	経済 産業	▽6 自己水源の恒常的不足 ▽7 商業への住民満足度の低さ ▽8 高齢の商店事業主の25%が事業継承を望んでいない現状 ▽9 新たな工業用地の敷地確保が困難 ▽10 町内農産品・特産品の対外ブランド力の弱さ ▽11 農家戸数の減少と高齢化による継承者の不足 ▽12 宿泊施設の不足 ▽13 圧倒的な集客力を持つ施設がない ▽14 民間の観光事業者が未参入 ▽15 体験型の観光コンテンツの不足 ▽16 行政施策の情報提供・PRの不足 ▽17 「安平町」という自治体名の知名度の低さ ▽18 観光資源間や近隣市町村との連携がない
◎18 地域福祉を支える住民ネットワークが確立 ◎19 過疎自治体だが地域医療・高齢者福祉事業・しょうがい者福祉事業を展開する民間法人が存在	健康 福祉	▽19 総合病院・福祉専門施設がない ▽20 地域公共交通に対する住民満足度の低さ ▽21 70歳以上の高齢者単身世帯数の割合の高さ（全世帯の約12%） ▽22 社会福祉協議会のボランティア活動者の高齢化 ▽23 地域福祉への理解者の減少
◎20 登下校時の見守りボランティア活動など、地域で子どもを育てる意識の強さ ◎21 待機児童ゼロ（2016年） ◎22 公私連携幼保連携型認定こども園の整備 ◎23 「子育てしやすい街ランキング（2015年）」全道2位 ◎24 18歳までの子ども医療費の無料化を実現 ◎25 少ない児童生徒数にありながら文化・スポーツ活動で全道・全国レベルの活躍が顕著 ◎26 積極的な就労支援などで注目される誘致企業会と追分高等学校による連携活動 ◎27 全ての認定こども園・小中学校にコミュニティ・スクールを設置 ◎28 幼保小中高の連携体制が確立	子育て 教育	▽24 合計特殊出生率の低さ（道内127位） ▽25 子どもを対象とした全天候型施設がない ▽26 宅地・団地内公園の児童遊具の魅力の低さ ▽27 児童・生徒数の減少による少年団・部活動・子ども会等の活動停滞・統合問題 ▽28 PTA・子ども会育成会の担い手不足（男性参加率低下に伴う女性の負担増） ▽29 少年団活動・部活動で利用できる子どものための交通機関がない ▽30 全ての小学校が1学級・複式学級であり、競い合い精神の醸成が困難 ▽31 追分高等学校の存続危機 ▽32 6校中5校の学校施設が老朽化
◎29 まちづくり基本条例・まちづくりファンド（町民基金）の設置 ◎30 地域コミュニティ活動が健在で防災や高齢者対策など自助・共助・公助の役割分担が機能 ◎31 屋内アイスアリーナ・鉄道資料館など近隣には無い希少スポーツ施設・文化施設の存在	人づくり コミュニティ (生涯学習)	▽33 新しい取組みに消極的な風土 ▽34 自治会・町内会等役員の担い手不足 ▽35 自治会・町内会等への加入率の急激な低下（H18：89%⇒H28：82%） ▽36 地域活動への若者参加者数の減少 ▽37 合併後10年で未だに存在する旧町の意識 ▽38 多目的に利用できる体育施設がない
◎32 自治会長等会議の制度化により行政と住民の距離が近く住民意見の政策反映スピードが速い	行財政 運営	▽39 約40%を占める築30年以上の公共施設に係る老朽化対策費用の増大 ▽40 合併特例の終了に伴う地方交付税の減少への対応

## 議事（3）分野ごとの振り返りについて（この10年間の検証）

### 【問い】

- ・この10年間で、「実際に変わったこと」はあるか？ 逆に、「変わらなかったこと」はあるか？
- ・それは、どんな行動や取り組みの結果として起きたか？
- ・アンケート結果の重要度は高いのに満足度は低いものは、なぜ改善されなかったか？
- ・前回のアンケート結果で、満足度が低かったものが高くなったのはなぜか？

※「アンケート結果」とは、主に「まとめ資料」の「まちづくり町民アンケート」結果のプロット図（下記に添付）をご覧ください。

### 【進め方】

- ・基本構想P30-32（下記に抜粋）の順に、プロット図などと比較しながら、上記【問い】に対するみなさまのお考えをお聞かせいただきたい。
- ・参加者全員から全ての問いについて1点1点聞くのではなく、また上記問いに関わらず、ざっくばらんにご発言いただきたいと考えている。

※基本構想P30-32の順に時間のゆるす限り議論を進め、残った部分は第3回にて検討する。

<基本構想P30-32抜粋>

### ■生活環境・生活基盤分野

①生活環境・生活基盤分野（移住・定住対策）の分析	
現状はどうか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定住促進条例に基づく住宅建設助成は、過去10年で50世帯程度</li> <li>・民間賃貸住宅建設助成により建設されたアパートの入居者の約6割は町外からの転入世帯</li> </ul>
強みは何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・恵まれた立地による生活利便性の良さと自然環境が調和した暮らしやすさ</li> <li>・気象条件に恵まれ大災害が少ない環境（道央圏に近接しているが降雪も少ない）</li> <li>・昼夜間人口比率の高さという他の過疎地域にはない特殊性（移住・定住者を増加させる潜在能力）</li> </ul>
弱点は何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都会から通勤できることは逆に弱み（当町へ通勤しやすい）</li> <li>・千歳・苫小牧の大規模な宅地開発（小区画分譲により当町の安価な土地の優位性が低下）</li> </ul>
今後の可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住・定住者を増やす潜在能力はあるが、都市に対抗するには他の政策分野との連動が必要</li> <li>・追分地区は空き家・中古住宅の流動化の促進が、早来地区は売却可能な空き地の活用が鍵</li> <li>・移住決定権を持つ女性は子育て・教育環境を重視する傾向があり、町内企業への通勤者のニーズ調査が必要</li> </ul>

②生活環境・生活基盤分野（生活インフラ整備）の分析	
現状はどうか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路・上下水道などインフラ整備を計画的に実施</li> <li>・維持管理面（道路の雑草など）で町民からの不満の声が多い</li> </ul>
強みは何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・恵まれた立地による生活利便性の良さと自然環境が調和した暮らしやすさ</li> <li>・日本最大級のメガソーラー発電所と世界最大級の蓄電施設が町内に存在</li> </ul>
弱点は何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郊外のインターネット環境の遅れ</li> <li>・地域公共交通に対する住民満足度の低さ</li> <li>・空き家や空き地の増加</li> <li>・道路の環境管理が行き届いておらず、町内施設や看板にも統一感がないため寂れた印象</li> <li>・公共施設・公共インフラの維持管理費の増大</li> </ul>
今後の可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弱点を克服するため、新たなインフラ整備として過大に投資を行うことは財政的に現実的ではなく、今後も計画的な整備と公共施設等の長寿命化に努めるもの</li> </ul>

## 議事（3）分野ごとの振り返りについて（この10年間の検証）

### ■経済・産業分野

③経済・産業分野（雇用・企業誘致対策）の分析	
現状はどうか	・既存企業の増設や旧公共施設を活用した新規創業など実績はあるが、町が分譲する工業団地への企業進出は実現できていない
強みは何か	・地理的優位性（空港・港湾など交通拠点に至近） ・雇用を生む、規模の大きな企業が町内に立地（町内雇用数は少なくない） ・昼夜間人口比率の高さという他の過疎地域にはない特殊性
弱点は何か	・都市計画区域の問題により広大な工業団地の敷地を確保できず、工業用水の確保も困難 ・周辺都市に大規模な工業団地が存在
今後の可能性	・企業誘致による雇用の確保は今後も重要だが、既に立地する企業を守り、町外から通勤する1,800人を移住・定住に結び付ける施策を優先すべき

④経済・産業分野（商業振興対策）の分析	
現状はどうか	・継承者がなく、今後の商店数の更なる減少を不安視 ・創業等支援事業計画に基づき、商店等継承者の確保対策を強化する必要がある ・経営者は生業で精一杯の状態にあり、昔のように地域振興に力を注ぐ余裕はない
強みは何か	——
弱点は何か	・商業に対する住民満足度の低さ ・商店事業主の高齢化と後継者不足（住居兼店舗であり空き店舗活用が進まない）
今後の可能性	・厳しい状況にあり「強み」を探ることができない

⑥経済・産業分野（回遊・交流促進）の分析	
現状はどうか	・道の駅建設を含む回遊・交流ステーション形成事業を展開 ・目的型観光から町内回遊へ結びつける手法を民間法人とともに検討している
強みは何か	・地理的優位性（空港・札幌市などに至近）と丘陵が織り成す北海道らしい牧歌的な風景 ・プロゴルフツアー開催の名門コースを含むバリエーションに富んだゴルフ場の存在
弱点は何か	・宿泊施設や圧倒的な集客力を持つ施設がない ・民間の観光事業者の参入がなく体験型の観光コンテンツも不足 ・行政施策の情報提供・PRが不足しており当町の知名度も低い
今後の可能性	・知名度向上はあらゆる政策につながる重要課題であり、「安平町を知り」⇒「訪問し」⇒「リピーターを増やし」⇒「最終的に移住定住」の流れを作ることが重要 ・町外者が好む風景があり道の駅を拠点としたPRに向け、重視すべき分野である

### ■健康・福祉分野

⑦健康・福祉分野の分析	
現状はどうか	・地域ぐるみで福祉が支えられ、高齢者に対する健康寿命延伸事業にも力を入れている
強みは何か	・地域福祉を支える住民ネットワークが確立 ・過疎自治体だが地域医療・高齢者福祉事業・しょうがい者福祉事業を展開する民間法人が存在
弱点は何か	・総合病院・福祉専門施設がない ・ボランティア活動者の高齢化と高齢者単身世帯の増加
今後の可能性	・福祉行政は地方公共団体の根幹であり、いかなる将来像であってもサービス向上を目指す分野だが、ニーズの多い総合病院の整備は実現性が低く、その克服は単独では困難

## 議事（3）分野ごとの振り返りについて（この10年間の検証）

### ■子育て・教育分野

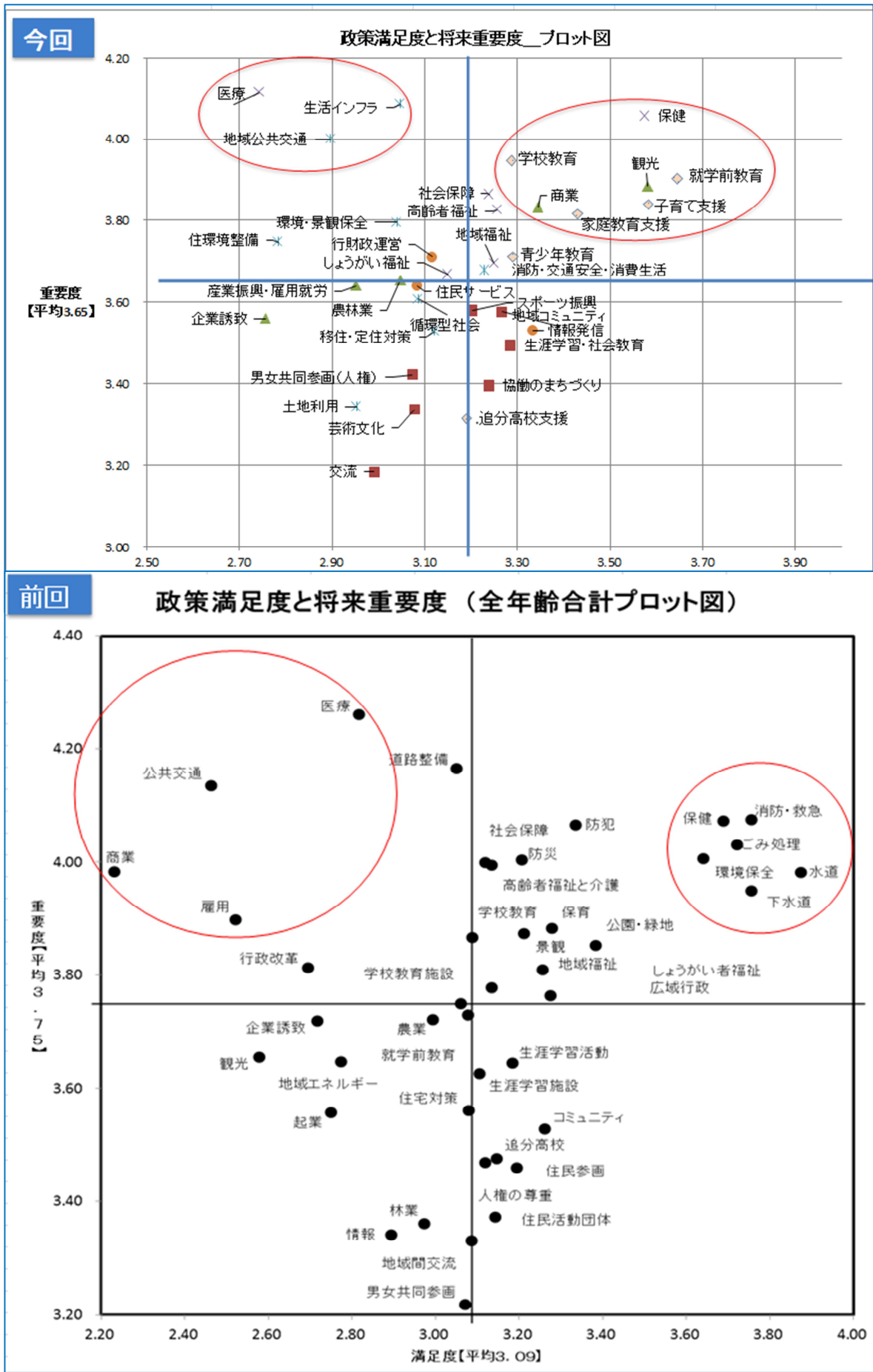
⑧子育て・教育分野の分析	
現状はどうか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民営化した「はやきた子ども園」の取組みは評価が高い</li> <li>・追分地区児童福祉複合施設整備（子育て支援サービス充実の更なる可能性）</li> <li>・子育て支援は国の重点課題</li> </ul>
強みは何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で子どもを育てる意識の強さ（コミュニティ・スクールの設置と幼保小中高の連携）</li> <li>・公私連携幼保連携型認定こども園の整備（待機児童ゼロ（2016年））</li> <li>・18歳までの子ども医療費の無料化を実現（「子育てしやすい街ランキング(2015年)」全道2位）</li> <li>・少ない児童生徒数にありながら文化・スポーツ活動で全道・全国レベルの活躍が顕著</li> <li>・積極的な就労支援などで注目される誘致企業会と追分高等学校による連携活動</li> </ul>
弱点は何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの遊び場の不足</li> <li>・児童生徒数の減少による教育や団体活動への影響</li> <li>・追分高等学校の存続危機</li> <li>・6校中5校の学校施設が老朽化</li> </ul>
今後の可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童福祉複合施設の整備やコミュニティ・スクールの取組みなど当町で最も勢いのある分野</li> <li>・「子育て・教育」は周辺都市との差別化できる分野</li> <li>・若い女性の目線で政策展開することが重要</li> </ul>

### ■人づくり・コミュニティ分野 ※基本構想P30-32に無いもの

⑨人づくり・コミュニティ分野の分析	
現状はどうか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化や人口減少により、地域コミュニティの担い手の不足</li> <li>・自治会町内会などの地域組織活動の継続が課題</li> <li>・人間関係の希薄化や無関心層の増加</li> <li>・町民主体の活動や地域の自主的なまちづくりの必要性</li> </ul>
強みは何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会町内会などの地域コミュニティの基盤がある</li> <li>・町民主体の活動を支える制度(まちづくりファンドなど)がある</li> <li>・生涯学習、文化、スポーツ活動を通じた人づくりの基盤がある</li> </ul>
弱点は何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会町内会の担い手不足と加盟率の低下</li> <li>・地域活動への若者参加の減少</li> <li>・旧町意識</li> </ul>
今後の可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働の町づくりの推進</li> <li>・NPO等多様な団体の設置と連携</li> <li>・生涯学習を通じた人づくり</li> <li>・ビジネスによるコミュニティの再生等地域課題解決への期待</li> </ul>

議事（3）分野ごとの振り返りについて（この10年間の検証）

↓まとめ資料「まちづくり町民アンケート」結果のプロット図を抜粋



議事（3）分野ごとの振り返りについて（この10年間の検証）

↓上記プロット図を作るための基礎データ

1 子育て・教育分野

項目	今回(A)		前回(B)		差(A-B)	
	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
子育て支援	3.58	3.84	3.28	3.88	0.30	-0.04
就学前教育	3.64	3.90	3.28	3.88	0.36	0.02
学校教育	3.29	3.95	3.69	4.07	-0.40	-0.12
迫分高等学校支援	3.19	3.31	3.15	3.48	0.04	-0.17
家庭教育支援	3.43	3.82	-	-	#VALUE!	#VALUE!
青少年教育	3.29	3.71	-	-	#VALUE!	#VALUE!
平均	3.40	3.76	3.35	3.83	0.05	-0.07

2 人づくり・コミュニティ分野

項目	今回(A)		前回(B)		差(A-B)	
	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
地域コミュニティ	3.27	3.58	3.26	3.53	0.01	0.05
協働のまちづくり	3.24	3.40	3.14	3.37	0.10	0.03
生涯学習・社会教育	3.28	3.49	3.18	3.65	0.10	-0.16
芸術文化	3.08	3.34	3.18	3.65	-0.10	-0.31
スポーツ振興	3.20	3.58	3.18	3.65	0.02	-0.07
男女共同参画(人権)	3.07	3.42	3.09	3.47	-0.02	-0.05
交流	2.99	3.18	3.09	3.33	-0.10	-0.15
平均	3.16	3.43	3.16	3.52	0.00	-0.09

3 経済・産業分野

項目	今回(A)		前回(B)		差(A-B)	
	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
農林業	3.05	3.65	2.98	3.54	0.07	0.11
企業誘致	2.76	3.56	2.72	3.72	0.04	-0.16
産業振興・雇用就労	2.95	3.64	2.64	3.73	0.31	-0.09
観光	3.58	3.88	2.58	3.66	1.00	0.22
商業	3.34	3.83	2.23	3.98	1.11	-0.15
平均	3.14	3.71	2.63	3.73	0.51	-0.01

4 健康・福祉分野

項目	今回(A)		前回(B)		差(A-B)	
	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
保健	3.58	4.06	3.69	4.07	-0.11	-0.01
医療	2.74	4.11	2.82	4.26	-0.08	-0.15
地域福祉	3.25	3.70	3.25	3.81	0.00	-0.11
しょうがい福祉	3.15	3.67	3.13	3.78	0.02	-0.11
高齢者福祉	3.26	3.83	3.13	4.00	0.13	-0.17
社会保障	3.24	3.86	3.12	4.00	0.12	-0.14
平均	3.20	3.87	3.19	3.99	0.01	-0.12

5 生活環境・生活基盤分野

項目	今回(A)		前回(B)		差(A-B)	
	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
環境・景観保全	3.04	3.80	3.52	3.97	-0.48	-0.17
循環型社会	3.09	3.61	2.77	3.65	0.32	-0.04
土地利用	2.95	3.34	3.21	3.87	-0.26	-0.53
生活インフラ	3.05	4.09	3.51	3.76	-0.46	0.33
住環境整備	2.78	3.75	3.08	3.56	-0.30	0.19
移住・定住対策	3.12	3.53	-	-	#VALUE!	#VALUE!
地域公共交通	2.90	4.00	2.46	4.13	0.44	-0.13
消防防災・交通安全・消費生活	3.23	3.68	3.43	4.05	-0.20	-0.37
平均	3.02	3.72	3.14	3.86	-0.12	-0.13

6 行財政運営分野

項目	今回(A)		前回(B)		差(A-B)	
	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
情報発信	3.33	3.53	-	-	#VALUE!	#VALUE!
住民サービス	3.08	3.64	3.19	3.46	-0.11	0.18
行財政運営	3.12	3.71	2.98	3.79	0.14	-0.08
平均	3.18	3.63	3.09	3.63	0.09	0.00

全体平均	3.18	3.65	3.07	3.71	0.11	-0.06
------	------	------	------	------	------	-------

議事（3）分野ごとの振り返りについて（この10年間の検証）

<分野とプロット図項目との関係性>

P30-32に整理される分野	その分野に該当するプロット図上の施策
①②生活環境・生活基盤分野	環境・景観保全 循環型社会 土地利用 生活インフラ 住環境整備 移住・定住対策 地域公共交通 消防防災・交通安全・消費生活
③④⑤⑥経済・産業分野	農林業 企業誘致 産業振興・雇用就労 観光 商業
⑦健康・福祉分野	保健 医療 地域福祉 しょうがい福祉 高齢者福祉 社会保障
⑧子育て・教育分野	子育て支援 就学前教育 学校教育 追分高等学校支援 家庭教育支援 青少年教育
人づくり・コミュニティ分野 ※P30-32にないため、本資料へ記載する。	地域コミュニティ 協働のまちづくり 生涯学習・社会教育 芸術文化 スポーツ振興 男女共同参画（人権） 交流